

マネジメント研究科 マネジメント研究科 専門職学位課程 (2011年度入学)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■アドバンスト科目	企業の社会的責任と倫理 武田 寛 他	2学期	1	2	1
	地域づくり総論 城戸 宏史	2学期	1	2	2
	公共経済学 井原 健雄	1学期	1	2	3
	マーケティング戦略 丸田 秀一郎 他	2学期	1	2	4
	会社法 高橋 衛	2学期	1	2	5
	知識マネジメント 越出 均	1学期	1	2	6
	管理会計 望月 恒男	集中	1	2	7
	パブリック・マネジメント 永津 美裕	1学期	1	2	8
	財務会計 未定		2	2	
	地域産業 柳井 雅人	2学期	1	2	9
	国際ビジネス・スキル 山口 実	1学期	1	2	10
	ロジスティックス 未定		2	2	
	問題解決スキル 北 真収 他	1学期	1	2	11
	チーム・マネジメント 未定		2	2	
	環境ビジネス 松永 裕己	1学期	1	2	12

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■アドバンスト科目	国際経営 晴山 英夫	2学期	1	2	13
■エグゼクティブ科目	ベンチャー・ビジネス 越出 均	1学期	1	2	14
	戦略的提携と事業創造 未定		2	2	
	フィナンシャル・インベストメント 未定		2	2	
	中国ビジネス 未定		2	2	
	環境政策 未定		2	2	
	医療マネジメント 未定		2	2	
	福祉マネジメント 未定		2	2	
開発管理 未定		2	2		
ビジネス中国語 未定		2	2		
自治体政策 未定		2	2		
モノづくり競争力の強化 雨澤 政材		2学期	1	2	15
ソーシャル・ビジネス 松永 裕己 他		2学期	1	2	16
医療経済 舟谷 文男		2学期	1	2	17
社会保障 杉原 好則		2学期	1	2	18

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■エグゼクティブ科目	自治体経営 永津 美裕	2学期	1	2	19
	イノベーション・マネジメント 未定		2	2	
	基礎中国語 未定		2	2	
	産学連携と事業創造 未定		2	2	
	ホスピタリティ・マネジメント 未定		2	2	
	アジア型経営 未定		2	2	
	公的プロジェクト・マネジメント 未定		2	2	
	NPO/NGO実践論 未定		2	2	
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションI 専任教員	1学期	1	2	20
	グループ・ディスカッションII 専任教員	2学期	1	2	
	プロジェクト研究I 専任教員		2	2	
	プロジェクト研究II 専任教員		2	2	
■ベーシック科目	マネジメント総論 齋藤 貞之	1学期	1	2	22
	経営戦略 高橋 秀直	1学期	1	2	
	マーケティング 米谷 雅之	1学期	1	2	24

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■ベーシック科目	アカウントイング 任 章	1学期	1	2	25
	ファイナンス 内田 交謹	2学期	1	2	26
	人材マネジメント 福井 直人	2学期	1	2	27
	組織とリーダーシップ 北 真収 他	2学期	1	2	28

企業の社会的責任と倫理 【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程, 広瀬 隆明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前半(①~⑥)は、企業の社会的責任(以下CSR)と倫理について、基礎的な知識のほか、企業が社会的責任を果たす上での具体的な実践方法、社会的責任報告書(CSR報告書)を題材にした事例研究や企業の実務者による解説、会社法や金融商品取引法における内部統制に関する規定との関連等を扱う。

後半(⑦~⑯)は、倫理について学ぶ。日本の伝統的な経営思想は、儒教や仏教に基づくものが多く、これらは永続が求められる現代に適合する可能性が高いので、東洋の道義と西洋の倫理の両方を学ぶ。日々の実践に活かせるように、具体的な事例に基づいて学ぶ。またクラス・ディスカッションを通じて、お互いの気づきを共有化する。

教科書 /Textbooks

前半は、各回レジユメを配布する。
後半は、授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『CSR入門講座』1~5巻(2005年)日本規格協会
白鳥・荻原(2005年)『CSRが良くわかる本』秀和システム
岡本享二(2005年)『CSR入門』日経文庫
環境管理システム研究会(2008年)『中小企業の社会的責任経営』西日本新聞社
梅津光弘(2008年)『ビジネスの倫理学』丸善
マイケル・サンデル(2010年)『これからの「正義」の話をしよう』早川書房
渋沢栄一(2010年)『現代語訳 経営論語』ダイヤモンド社
稲盛和夫(2007年)『人生の王道 西郷南洲の教えに学ぶ』日経BP社ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 企業の社会的責任(CSR)とは何か、なぜ今CSRなのか
【持続可能性】【メセナ】【コンプライアンス】【コーポレート・ガバナンス】
- ② 各国におけるCSRの普及とCSRに関する基準・規格・ガイドライン【GRI】【ISO】
- ③ CSRとステークホルダー(利害関係者)【企業行動憲章】
- ④ CSR報告書(1)国内企業のCSRへの取組みを考える
- ⑤ CSR報告書(2)学生による事例発表
- ⑥ 企業のCSR責任者による実務における取組みの紹介
- ⑦ 環境会計、CSR会計【環境保全コスト】【環境保全効果】【環境保全対策】
- ⑧ 社会的責任投資(SRI)【スクリーニング】【株主行動】【コミュニティ投資】
- ⑨ 倫理概観【倫理】【道義】【実践倫理】【経営思想】
- ⑩ 東洋の道義(1)ディスカッションI
【稲盛和夫】【敬天愛人】【西郷隆盛】【南洲翁遺訓】【利他】【真心】【立志】
- ⑪ 東洋の道義(2)【公共性】【自発性】【共生】【弱さの意味】【文明と人間】【永続】
- ⑫ 東洋の道義(3)ディスカッションII
【渋沢栄一】【経営論語】【道徳経済合一説】【義】【利】【アダム・スミス】
- ⑬ 西洋の倫理(1)【功利主義】【ベンサム】【義務論】【カント】【美德】【アリストテレス】
- ⑭ 西洋の倫理(2)ディスカッションIII
【正義】【共通善】【マッキンタイア】【サンデル】【コミュニタリアニズム】
- ⑮ 総合：経営の目的【徳づくり】

成績評価の方法 /Assessment Method

前半(①~⑥)50%、後半(⑦~⑯)50%を合算して評価する。
前半は、授業への参加姿勢(15%)、発表・ディスカッション(20%)、課題レポートの内容(15%)などをもとに総合的に判断する。
後半は、クラスへの貢献度(15%)と課題の評価(35%)の合計である。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

企業の社会的責任と倫理 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域づくり総論【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

わが国は既に人口減社会に突入しており、経済活力の低下が深刻化しつつある。とりわけ、地方における経済活力の低下は極めて深刻な状況となっている。そのため、これまで以上に地域づくりや地域産業振興への関心が高まっている。しかしながら、従来の行政中心の手法には限界があり、行政の枠を超えたマネジメントのもとでの地域づくりや地域産業振興が求められている。そこで本講義では、行政の枠を超えた地域づくりのケーススタディや地域づくりのリーダーとのディスカッションにより、様々な担い手によって実行される地域づくりに必要な戦略やマネジメント、とりわけ「コラボレーション」や「合意形成」のあり方について学ぶものとする。なお、本講義は2コマ連続の隔週開講とする。

教科書 /Textbooks

その都度、指示します（基本はプリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

塩沢由典・小長谷一之『まちづくりと創造都市 - 基礎と応用 -』晃洋書房
増田直紀『私たちはどうつながっているのか』中公新書
原科幸彦『市民参加と合意形成』学芸出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①、②地域を景観とデータから読み取る
【地域の現状認識の確認：高齢化・都心空洞化・人口減少、消費低迷、下流化】
【ディスカッション：10年後の地域のかたち】
- ③、④地域資源とソーシャル・キャピタル
【人的ネットワーク、コラボレーション、リーダーシップ、外部マネジメント】
【ディスカッション：地域づくりのために誰とつながるべきか？】
- ⑤、⑥地域づくりのケーススタディ1
【福岡県みのう地域：農村、農業、ツーリズム、自然、芸術】
- ⑦、⑧地域づくりのケーススタディ2
【九州地域：産業振興、半導体産業、クラスター、産学連携】
- ⑨、⑩地域づくりにおけるリーダーの資質と今後の地域マーケティング
【ディスカッション：地域づくりにおけるリーダーとは？】
【地域マーケティング、ソーシャルメディア、ICT】
- ⑪、⑫市街地再開発を考える（八幡地区を事例に）
【市街地再開発、再開発組合、都市計画、コミュニティ、合意形成】
【ディスカッション：どのように地域で合意形成すれば良いのか？】
- ⑬地域づくりプロジェクトの提案（どんな地域資源を生かして誰とつながるのか）

成績評価の方法 /Assessment Method

地域づくりプロジェクトの提案レポートを中心に、ディスカッションに対する貢献度を加味して総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経済学【夜】

担当者名 井原 健雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

昨今、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」に基づき、高速道路会社および機構により「高速道路料金の引き下げ計画」が策定され、その具体的な実施が全国各地で展開され、さまざまな問題が顕在化している。本講義では、このような状況に配慮して「高速道路料金の大幅値下げに伴う影響」などを考察し、その「説明責任」(Accountability)を誰がどのように果たすべきかについての正しい理解と認識を深めることを目的とする。換言すれば、本講義では、公共部門の多様な諸政策を経済学的な観点から捉えることにより、公共政策の形成に活用できる経済学的思考の養成を図るものである。したがって、公共政策を評価するための「費用便益分析」(Cost-Benefit Analysis)の基礎的理解の深化を図るとともに、その有効範囲と限界についても正しく理解できる能力の向上を意図するものである。

教科書 /Textbooks

井堀利宏(2004)『基礎コース 公共経済学』新世社
山内弘隆・上山信一編(2003)『パブリック・セクターの経済・経営学』NTT出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ステイグリッツ(2003)『公共経済学第2版 上巻』東洋経済新報社
中村英夫編(1997)『道路投資の社会経済評価』東洋経済新報社、ほか。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① プロローグ(政策と費用便益分析)
【政策、費用便益分析の目的、役割、歴史】
- ② 費用便益分析の基礎1
【費用便益分析のミクロ経済学】
- ③ 費用便益分析の基礎2
【費用、便益の評価、割引現在価値】
- ④ 費用便益分析の基礎3
【社会的割引率、純便益法、費用便益比率法】
- ⑤ 政策評価事例研究1
【道路整備事業の評価、利用者便益】
- ⑥ リスク・不確実性
【リスク・プレミアム、リスク評価】
- ⑦ 政策評価事例研究2
【空港事業の評価、港湾事業の評価】
- ⑧ チームプロジェクト1
【ガイダンス、政策分析の設計】
- ⑨ 仮想評価法(CVM)と旅行費用法(TCM)
【使用価値と存在価値、仮想評価法、旅行費用】
- ⑩ 政策事例研究3
【ごみ減量政策の評価】
- ⑪ チームプロジェクト2
【政策分析対象の政策、評価法の経過報告】
- ⑫ 費用効果分析
【抱絡分析法】
- ⑬ 政策事例研究4
【PFI、市場化テスト】
- ⑭ 費用便益分析の有効範囲と限界
【効率性と公平性、政策評価の客観性】
- ⑮ チームプロジェクト発表
【政策評価のプレゼンテーション、ディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%)、期末試験(50%)、課題に対するレポート・プレゼンテーション(20%)、授業に対する参加度(10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

公共経済学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング戦略 【夜】

担当者名 /Instructor 丸田 秀一郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 平野 健二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
												○

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

授業の概要 /Course Description

バブル崩壊時から急激に変化してきた熾烈な企業の考え方に注目し、具体的例を参考に、これから企業が生き延びる為の、経営戦略としてのマーケティングの仕組みを分析・研究する。顧客に接している営業関係者向けのマーケティング（5～9）と企業内部の経営者・技術者・製造担当者向けのマーケティング（1～4、11～15）の、双方の職責に向けて理論と実践を学習する。企業で行われている社内教育の例をモチーフに実践型の応用例の紹介や演習等を行う。資料は実企業で用いられている社内教育用に編纂された資料を活用。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布。電子データの場合USB等電子媒体の準備が望ましい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

NE日経エレクトロニクス、日本経済新聞、日経Automotive Technology 等業界専門誌。日本能率協会 [技術マーケティング] 等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入編：産業界構造と企業が求める人材等、基本項目のレビュー
企業教育の基礎、商材分類、アプリケーション、企業体内時計等
2. 最近の市場動向とアンゾフの成長ベクトルについて
商材の分化・肥大化に伴う不振、時間のドリフト、アンゾフの成長ベクトル、例
3. 経営戦略とマーケティング
基本4戦略と統合市場戦略、市場ライフサイクル、ドメインの定義、キャズム
4. 需要戦略
需要戦略の骨子、プロセスフローシート、4Pの位置づけ、Push-Pull 戦略
5. One to One マーケティングの必然 (lecture)
①社会環境の変化 (マスマーケティングの機能不全、コモディティからパーソナルへ)
②同質競争の激化 (商圏の狭小化、市場創出の必要性)
6. 価値の発見・定義 (discussion)
①価値の本質、②価値の発見、③価値の定義、④価値と価格
7. 価値の伝達 (presentation)
学生によるプレゼンテーション「各自が定めた商品の価値を伝える」
8. 顧客の発見・創造 (discussion) 顧客のプロファイリング
デモグラフィック、購買行動 (顧客ID-POS の実例)、定性分析
9. 価値伝達ツールの活用 (discussion)
①学生によるプレゼン～メディアの特性分析
②メディア特性の確認
③AIDMA とメディア特性
10. プレゼンテーション[価値伝達と評価]
11. 競争戦略
SBUの定義、相対的経営資源、競争地位の定義、戦略定石、シェア争奪戦
12. ランチェスターの法則
基本法則、クーブマンの目標値、射程距離理論、弱者強者の戦い
13. コスト戦略 (製造と販売)
販売コスト、製造コスト、マネーフロー、おまけ論、付加価値の定量化
14. マーケティングに必要な補足事項
①海外戦略の基本 (三段階の海外対応戦略について理解)
②企業活動に於ける分析手法 (6σ手法の考え方)
15. 特別企画 (ミニゼミや特別講師招聘等を行う)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションに対する貢献度等を評価して総合判断。なお、毎講義毎にデータベース (資料 : パワーポイント等) を配布し、授業への参加姿勢を重視する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

マーケティング戦略【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法【夜】

担当者名
/Instructor 高橋 衛 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。この講義では、会社のうち株式会社を中心に、会社のガバナンスやファイナンス・M&A等に関する法制度を説明します。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
- ②会社法の目的と株式会社の基本構造 (1)
- ③会社法の目的と株式会社の基本構造 (2)
- ④経営者の義務と責任 (1)
- ⑤経営者の義務と責任 (2)
- ⑥経営の監督機関
- ⑦株式会社の資金調達 (1)
- ⑧株式会社の資金調達 (2)
- ⑨株式会社の会計
- ⑩株式会社の設立
- ⑪株式会社の組織再編
- ⑫企業買収
- ⑬会社グループの法規制 (1)
- ⑭会社グループの法規制 (2)
- ⑮まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のクラスへの貢献度、課題、期末試験等に基づき、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知識マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は知識の共有・活用を組織的に展開するナレッジマネジメントと共に、知識をイノベーションの源泉とする知識創造について検討を加え、知識社会の経営、管理について習得することを目指す。有益な知識を提供し合い、相互に活用することで知識生産性の向上を志向するマネジメントを検討しながら、他方ではイノベーションに必要な新しい知識の創造についても取り上げ、新規事業やビジネスモデルの創出、製品・技術の開発などに不可欠な「場」の議論、ワークスタイルの分析・設計などを通して知識経営の実践力を高め、知識社会のリダ-像を明らかにする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

越出均『情報と知識のマネジメント』、創成社
 國領・野中・片岡『ネットワ-ク社会の知識経営』、NTT出版
 野中・竹内『知識創造企業』、東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 知識社会の到来
【収穫逓増のプラットフォーム】
- ② 知識ネットワ-ク
【企業の実践コミュニティ】
- ③ 知識経営の基礎
【知識マネジメントの要諦】
- ④ 知識創造経営
【SECIモデル】
- ⑤ 知識経営の実際
【ゲストに学ぶ知識経営】
- ⑥ 知識イノベーション
【異なる知のマネジメント】
- ⑦ 知のコラボレ-ション
【顧客とのリレ-ションシップと価値創出】
- ⑧ 失敗の「知」
【体験的学習の生かし方】
- ⑨ 「知」の伝承
【場の共有化と技能習得】
- ⑩ 「知」のデジタル化
【技術思考による業務改革】
- ⑪ 営業のナレッジ共有とスキルアップ
【可視化のマネジメント】
- ⑫ 知識社会のリダ-シップ
【CKOの役割】
- ⑬ 地域の「知」をマネジメントする
【商店街・地場産業の集積知、知的触発】
- ⑭～⑮
自社における知識ビジネスと知識経営についての考察、発表

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションに対する貢献度と課題に対するレポート評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

知識マネジメント 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計【夜】

担当者名 /Instructor 望月 恒男 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

管理会計は、企業の経営管理者の意思決定に有用な情報を提供する会計情報システムである。本講座では、まず、伝統的な管理会計の領域である業績管理会計および意思決定会計における理論と技法について基礎的知識を習得してもらう。その上で、管理会計の新しい領域である戦略的管理会計における理論と技法について学ぶことにより管理会計全般に関する知識・理解を深めていく。なお、各演習では受講生に事例発表をしてもらうので、受講に際しては積極的な姿勢を期待したい。

教科書 /Textbooks

岡本・尾畑・廣本・挽著『管理会計（第2版）』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

加登・李著『ケースブック・コストマネジメント』新世社
櫻井通晴著『管理会計（第4版）』同文館出版
山本・小倉・尾畑・小菅・中村編著『スタンダードテキスト管理会計論』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション：本講座の領域と目的、成績評価の方法について
【オリエンテーション】【原価計算】
 - ②管理会計の概説：管理会計の体系について
【業績管理会計】【意思決定会計】【戦略的管理会計】
 - ③業績管理会計1：短期利益計画とCVP分析について
【変動費】【固定費】【CVP分析】
 - ④業績管理会計2：予算管理システムについて
【予算編成】【予算統制】【予算管理の人間の側面】
 - ⑤業績管理会計3：事業部制会計について
【責任会計】【ROI】【残余利益】
 - ⑥演習1：業績管理会計事例分析（受講生による事例発表）
【予算管理】【業績評価システム】
 - ⑦意思決定会計1：意思決定に必要な原価概念について
【特殊原価概念】【埋没原価】【機会原価】
 - ⑧意思決定会計2：業務的意思決定について
【差額原価収益分析】【関連原価】【無関連原価】
 - ⑨意思決定会計3：設備投資の意思決定モデルについて
【回収期間法】【NPV】【IRR】
 - ⑩演習2：意思決定会計事例分析（受講生による事例発表）
【業務的意思決定】【設備投資の意思決定】
 - ⑪戦略的管理会計1：伝統的原価管理と原価企画について
【標準原価管理】【戦略的コスト・マネジメント】【源流管理】【品質原価】
 - ⑫戦略的管理会計2：ABC(活動基準原価計算)とABM(活動基準管理)について
【活動】【コスト・ドライバー】【価値連鎖】
 - ⑬戦略的管理会計3：BSC(バランスト・スコアカード)について
【ビジョンと戦略】【戦略マップ】【KPI】
 - ⑭演習3：戦略的管理会計事例分析（受講生による事例発表）
【戦略的管理会計】
 - ⑮演習4
【総まとめ】
- ※なお、受講生の理解度を高めるために、随時、各テーマにかかわる事例や計算例を取り上げる予定であるので、受講者は電卓を持参されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（授業への参加姿勢、発言、課題レポート等）30%、演習での発表30%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

管理会計【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

パブリック・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国、地方ともに財政難に直面するわが国では、従来の行政を中心とする公共経営の限界が明確になりつつあり、90年代後半から新たな行政手法としてNPM（ニュー・パブリック・マネジメント）の導入が推進されている。顧客主義に基づき行政の経済性や効率性を重視するNPMは一定の成果をあげているが、NPOなどの市民セクターによる新しい公共の担い手など多様な主体による公共経営のあり方が模索されている。そのため、NPMの理論や特性、行財政改革手法、公共の担い手としての職業倫理等を学び、外郭団体や公益団体まで含めた公共経営やNPMを超えた福祉や教育の分野などでの市民セクターとの地域協働による新しい公共空間の創造の展望を探る。

教科書 /Textbooks

授業の都度、資料を配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大住 荘四郎 (2002年) 『パブリック・マネジメント』日本評論社
分権型社会に対応した地方行政組織の刷新に関する研究会 (2005年) 『分権型社会における自治体経営の刷新戦略』P・F・トラッカー『非営利組織の経営』(1991年)ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① パブリックマネジメント総論I
【パブリックセクターの特性、歴史的経緯、社会的変化】
- ② パブリックマネジメント総論II
【公共セクターの役割、公共セクターの職業倫理】
- ③ パブリックマネジメント総論III
【NPMの理論背景と基本的考え方】
- ④ 課題発表、議論
【学生による意見交換、論議】
- ⑤ 公益法人・NPO制度、地域協働の取り組み
【NPO、自治組織など市民セクターとの協働】
- ⑥ パブリック組織の組織・人材マネジメント
【わが国の人事制度の特徴】
- ⑦ パブリック組織の財政の仕組みI
【国・地方の予算・決算制度】
- ⑧ パブリック組織の財政の仕組みII
【国・地方の財政分析】
- ⑨ パブリックサービスの改革手法I
【PPP】【民間委託】
- ⑩ パブリックサービスの改革手法II
【独立行政法人】
- ⑪ パブリックサービスの改革手法III
【指定管理者制度】
- ⑫ 課題発表、議論
【学生による意見交換、論議】
- ⑬ パブリックサービスの改革手法IV
【PFI】【市場化テスト】
- ⑭ パブリックサービスの改革手法V
【第三セクター・外郭団体】
- ⑮ まとめ
【多様な主体による【新しい公共空間の構築】】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)、授業の状況(質疑、意見、発表等30%)をもとに評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

パブリック・マネジメント【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域産業【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

授業の概要 /Course Description

北部九州地域を支える産業の特性を分析しながら、その育成策について実証的かつ実践的に学んでいく。とくに産業立地や産業集積（クラスター）という観点から、地域において主導的な役割をはたしていく産業の成長促進策について体系的に学習する。また産業というレベルだけでなく、企業や事業所レベルでのミクロの動きについても注意を払い、九州地域の中小企業などが市場開拓や新規参入をはかる際の行動についても分析を加えていく。これに対応して行政側の企業支援策という側面についても言及していくこととしたい。

教科書 /Textbooks

配布プリントを中心とし、その他必要なものは講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①日本および九州地域の産業構造と変化の動向
【産業構造】【戦略産業】
- ②北部九州地域の産業構造
【北部九州】【福北大都市圏】
- ③主要産業の動向と地域に与える影響I
【素材産業】
- ④主要産業の動向と地域に与える影響II
【加工組立産業】
- ⑤主要産業の動向と地域に与える影響III
【商業・サービス業】
- ⑥地域産業における生産・流通システムの高度化I
【大企業】【事業再構築】
- ⑦地域産業における生産・流通システムの高度化II
【中小企業】【事業再構築】
- ⑧地域産業の新規事業開拓I
【既存取引活用型】
- ⑨地域産業の新規事業開拓II
【異分野展開型】
- ⑩地域産業の新規事業開拓III
【事業転換型】
- ⑪地域産業活性化への政策的対応I
【事業高度化促進】
- ⑫地域産業活性化への政策的対応II
【立地促進】【企業誘致】
- ⑬地域産業活性化への政策的対応III
【雇用促進】【人材活用】
- ⑭地域産業活性化への政策的対応IV
【集積促進】【イノベーション】
- ⑮まとめ
【地域産業育成のあるべき姿】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート・プレゼンテーション、ディスカッションに対する貢献度、小テスト、期末試験など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

地域産業【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際ビジネス・スキル【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

授業の概要 /Course Description

国際ビジネスにおけるコミュニケーション・スキル、交渉スキル、さらにはプレゼンテーション・スキルを体得することを目的とする。前半は、発音・文法などの英語の基礎を踏まえた上で、英語表現を反復して声に出しながら、「聞く」「書く」「読む」「話す」という国際ビジネス・コミュニケーションの基礎力を育む。後半部分では、前半で体得した基礎力に基づいて、ビジネス・コミュニケーションの実践を英語で行う。具体的な場面を想定して、交渉やプレゼンテーションを実践する。その際、あらかじめ用意された課題について、事前に周到な段取りをつける。尚、講師と受講生はその都度英文e-mailにて交信する。

教科書 /Textbooks

適宜、講師の作成したプリントを配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『仕事現場の英会話商社編』株式会社 DHC (2003年)
- 『英語で学ぶMBA ベーシックス』NHK出版(2002年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①国際ビジネス・スキルの講義概要
【コミュニケーション・スキル、プレゼンテーション・スキル】
- ②英語の基礎の復習【発音と英語文法の学び方とその重要性】
- ③リスニングI 【Website を活用してのリスニング・スキルの向上】
- ④リスニングII 【DVD・CD を活用してのリスニング・スキルの向上】
- ⑤ライティング 【ビジネスe-mail とレターの書き方】
- ⑥スピーキングI 【ショート・トーク】
- ⑦スピーキングII 【会食(ビジネス・ランチ)】
- ⑧前半のまとめ、及び企業哲学と組織のビジョンについて
- ⑨ビジネス交渉実践I 【契約条件の交渉】
- ⑩ビジネス交渉実践II 【船積と代金回収】
- ⑪ビジネス交渉実践III 【リスクマネジメント】
- ⑫プレゼンテーション実践I 【プレゼンテーションの決まり文句】
- ⑬プレゼンテーション実践II 【自己及び製品の売り込み】
- ⑭プレゼンテーション実践III 【プロジェクトのプレゼンテーション】
- ⑮パブリック・プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

ビジネス英語力の成長度40%、授業及び課題への積極的な取り組みとその実践を60%として評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

問題解決スキル【夜】

担当者名 /Instructor 北 真収 / Masanobu Kita / マネジメント研究科 専門職学位課程, 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○

授業の概要 /Course Description

ビジネスに必要なスキルは、プレゼンテーション、ライティング、コミュニケーションなど多岐にわたるが、本講義では、問題解決に必要なとされる基本的な思考方法、分析ツールを紹介し、ケーススタディを通して解決スキルを習得してもらうことに主眼を置いている。

前半は、ロジカル・シンキングを主体に講義を行う。後半は、情報システムの視点から授業を構成する。適宜、演習問題を課すことによって理解力を高め、スキルの向上をめざす。

具体的には、思考では水平思考など、ツールでは、ロジックツリー、KJ法など簡単なものからパソコンを利用したいいくつかの分析手法を取り上げる。

教科書 /Textbooks

プリントまたは冊子を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

バーバラ・ミント(1999年)『考える技術・書く技術』ダイヤモンド社

平山克己(2008年)『あほ賢システムのおはなし』SCC

刀根 芳(2001年)『オペレーションズ・リサーチ読本』日本評論社

柏木吉基(2006年)『Excelで学ぶ意思決定論』Ohmsha

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 演繹法と帰納法(北) 【因果関係・共変関係】【一致と差異】
- ② 仮説思考(北) 【MECEとフレームワーク思考】
- ③ 水平思考(北) 【イノベーション思考】
- ④ ピラミッド原則(北) 【ロジックツリー】
- ⑤ 分析ツール(北) 【回帰分析】【ファクター分析】【感度分析】
- ⑥ 演習問題(北)
- ⑦ ビジネスとコンピュータ科学(平山) 【基幹業務システム】【EUC】【JIT】
- ⑧ 問題解決手法(平山) 【KJ法】【ブレインストーミング】
- ⑨ 表計算ソフトによる図解化法(平山) 【グラフ化】
- ⑩ オペレーションズ・リサーチ1(平山) 【最適化】【線形計画法】
- ⑪ オペレーションズ・リサーチ2(平山) 【PERT】
- ⑫ プレゼンテーションソフトによる図解化法(平山) 【DFD】【フローチャート】
- ⑬ 業務モデル化手法(平山) 【IDEF】
- ⑭ 業務分析手法(平山) 【Activity Based Costing】【管理会計】
- ⑮ 討議とまとめ(北)

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況・・・30% 課題・・・40% 討議の貢献度・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、第1に経済システムという視点から環境問題や環境行動を考察する(マクロ的分析)。第2に、環境ビジネス分野ごとの動向を把握し、現状分析と課題抽出を行い、その動向を探る(セミマクロ的分析)。第3に、企業経営において必要とされる環境行動について検討し、課題解決のためのプランを検討する(ミクロ的分析)。これによって環境とビジネスの関わりについて幅広い知識を得るとともに、さまざまな局面で生じる課題を分析し解決する力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ダニエル・C・エスティ/アンドリュース・ウィンストン(村井章子訳)『グリーン・トゥ・ゴールド』アスペクト、2008年。
その他の文献については、講義のなかで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション
【環境ビジネスとは何か】
- ②企業活動と環境問題
【環境問題と企業活動の関係を考える】
- ③社会システムと環境問題
【持続可能な発展：市場・行政・社会のシステム】
- ④リサイクルビジネスの基礎
【リサイクルビジネスの分野と成長可能性】
- ⑤リサイクルビジネスの課題
【リサイクルビジネスの課題とその解決方法】
- ⑥環境ビジネスにおける顧客創造
【顧客とは誰か？顧客創造とは何か？】
- ⑦環境産業クラスター1
【環境産業クラスターの現状と課題】
- ⑧環境産業クラスター2
【環境ビジネスにおける戦略とファイブフォース】
- ⑨現場から考える環境ビジネス1
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑩現場から考える環境ビジネス2
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑪環境ビジネスにおけるイノベーション1
【環境分野における技術革新と市場への適用】
- ⑫環境ビジネスにおけるイノベーション2
【環境ビジネスを通じたソーシャルイノベーション】
- ⑬環境ビジネスの市場分析と参入可能性1
【市場分析のフレームワーク】
- ⑭環境ビジネスの市場分析と参入可能性2
【市場分析に基づくディスカッション】
- ⑮まとめとディスカッション
【課題設定にもとづきディスカッション】

※なお、上記に加え、希望者による環境企業見学を行う(予定)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度(発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など):50%、課題の内容(レポートなど):50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

環境ビジネス【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営【夜】

担当者名 晴山 英夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
												○

授業の概要 /Course Description

企業・経営のグローバル化に関する広い視野と深い洞察力、国際化戦略の策定に関する専門的知識の習得を目的とする。講義は3部構成で、第1部では国際経営や多国籍企業概念や理論の検討を通じて国際経営の基礎を学ぶ。第2部では、日本企業を中心に多国籍企業の経営戦略を検討する。所有政策と組織、海外生産と国内雇用維持のジレンマ、海外子会社の経営の立ち遅れなど。第3部は事例研究とゲストスピーカーの話を中心に討論を行い、理解を深めることにしたい。

教科書 /Textbooks

レジюме、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

吉原英樹編著『国際経営論への招待』ミネルヴァ書房
竹田志郎・島田克美編著『国際経営論』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントラダクション 【企業の国際化】【グローバル競争】【産業の空洞化】
- ② 国際化の基礎理論 【国際化の動機と発展経路】【直接投資】【多国籍企業】
- ③ 多国籍企業概念と理論 【企業の国籍】【直接投資】【PLC理論】
- ④ 多国籍企業の経営戦略1 【輸出・技術提携・海外生産】【単独事業か合併事業か】
- ⑤ 多国籍企業の経営戦略2 【国のポートフォリオの選択】【経営資源の移転戦略】
- ⑥ 多国籍企業の所有戦略 【所有形態の決定要因】【日本と米国の比較】
- ⑦ 多国籍企業の組織戦略 日本の海外事業部と米国の地域別事業部制
- ⑧ 日本の多国籍企業の海外生産 【輸出から海外生産へ】【日本の経営の移転】
- ⑨ 日本の国際経営の課題 【業績低迷と現地化の遅れ】【内なる国際化】
- ⑩ 実態分析I 日本企業の対中投資の動向と経営課題
- ⑪ 実態分析II 日本企業と中国企業の競争力分析
- ⑫ 事例研究I 中国における日系多国籍企業の事例(ゲストスピーカーを予定)
- ⑬ 事例研究II 東アジア華人系多国籍企業の事例(同上)
- ⑭ 事例研究III 租税戦略と租税回避規制(同上)
- ⑮ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート、討議参加度などを総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ベンチャー・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は起業家社会を標榜したアントレプレナ - の行動特性などを踏まえながら、事業創造とスタ - トアップ、成長・発展から成熟までの各段階に対応した戦略、マネジメントについて検討する。コ - ポレ - ト・ベンチャリング、スピナウト、さらにはソ - シャル・アントレプレナ - などを含む起業形態を想定した上で、情報サ - ビス業者の起業モデルなどを先例としたケ - ス・スタディを行い、ビジネス・チャンスの探索、ビジネスプランの策定、企業設立、そして経営手法に学ぶ実践的学習方法を取り入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

越出均『起業モデル』、創成社
 ティモンズ『ベンチャー - 創造の理論と戦略』、ダイヤモンド社
 ヴェスパ - 『ニュー - ベンチャー - 戦略』、同友館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 起業家精神と行動特性
【アントレプレナ - のマインドと学習】
- ② シリコンバレ - ・モデル
【ビジネス・インキュベ - ション】
- ③ ベンチャー - 企業のスタ - トアップ
【革新的スモ - ルビジネスの存続条件】
- ④ ベンチャー - 企業の創造プロセス
【ビジネスチャンスの探索と戦略思考】
- ⑤ ベンチャー - 企業の成長と発展
【変革と成長の痛み】
- ⑥ ベンチャー - 企業のマネジメント
【経営のプロフェッショナルをめざして】
- ⑦ ベンチャー - 企業・革新的中小企業の実際
【ゲストによる事例報告】
- ⑧ コ - ポレ - トベンチャリング
【社内起業家の取り組みと第二創業】
- ⑨ 研究開発の事業化
【事業提携とジョイント・ベンチャー - 】
- ⑩ ソーシャル・ベンチャー -
【事業志向型の社会起業家】
- ⑪ ネットベンチャー -
【ビジネスモデルの創造】
- ⑫ 新規事業のプランニング
【事業計画書の作成】
- ⑬ ~ ⑭ ビジネスプランの作成とプレゼンテ - ション

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションへの貢献度と課題に関するレポ - トで評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ベンチャー・ビジネス【夜】

キーワード /Keywords

モノづくり競争力の強化【夜】

担当者名 /Instructor 雨澤 政材 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

わが国は、資源小国であり、製造業が勝ち残るためには、モノづくりの競争力で世界に優位でなければならない。メイド・イン・ジャパンとして、世界トップのものづくり大国だった日本は80年代には勤勉さがもたらした高品質でその優位を保ってきたが、いまやそれだけでは追いついてきている諸国に足元を脅かされてきている。この現状を踏まえ、今後モノづくり競争力をどのような方法で強化すべきかを実務家の視点から、人材育成と工場運営のあり方、生産性の重要性、生産技術などに重点をおいて、その対策について、事例を紹介しながら解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義方式に加えて、DVD やプロジェクターを活用し、分かりやすい解説を心がける。質疑応答の時間を十分に取、理解を深めてもらう。

- ① モノづくり企業に求められる競争力
 - 【開発からアフターサービス】 【商品開発力】 【生産技術力】 【工場運営能力】
 - 【宣伝・販売力】
- ② 工場管理概論
 - 【企業による工場の位置づけ】 【工場管理の基本】 【工場の持つべき要件】
- ③、④ 工場における労務管理
 - 【労務管理の変遷】 【労務の多様化】 【世界・日本・九州の労働市場の現状と将来】
- ⑤、⑥ 原価管理
 - 【原価管理の体系】 【原価構成・費目区分】 【開発段階での原価改善】
 - 【製造原価の把握と改善】
- ⑦、⑧ 品質管理
 - 【トヨタの品質管理】 【お客様指向】 【停めるライン、止まる機械】
 - 【自工程完結思想】 【トレーサビリティ】 【日常管理】 【変化点管理】
- ⑨ トヨタ生産方式の生まれた背景
 - 【トヨタの歴史】 【経営理念】 【トヨタ生産方式とは】 【トヨタ生産方式は展開が難しい】
- ⑩ トヨタ生産方式の基本的な手法
 - 【5S】 【職場の見える化】 【ムダの削減・排除】 【生産ラインの作り方】
- ⑪ トヨタ生産方式の具体的な改善の進め方
 - 【基本姿勢】 【改善の切り口】 【生産仕掛けの改善】 【人の動きの改善】
 - 【物流改善】 【品質改善】
- ⑫ 新製品の生産準備
 - 【SE 活動】 【品質保証活動】 【生産準備活動】 【製造準備活動】
- ⑬ 生産技術・製造技術からのアプローチ
 - 【真似の出来ない技術】 【自社独自の設備や工程】
- ⑭ 人材育成と技能伝承
 - 【標準化と技能伝授】 【ワーキングライフプラン】
 - 【チームプレーという現場風土の伝承】
- ⑮ 製造現場のモチベーション管理
 - 【インセンティブ制度の功罪】 【公平な人事制度】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題についてのレポートや、ディスカッションなどをベースに評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

モノづくり競争力の強化 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 関 宣昭 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

授業の概要 /Course Description

近年、社会的課題をビジネスとして事業性を確保しながら解決しようとする「ソーシャルビジネス」への期待が高まっている。本講義では、まず経済社会におけるソーシャルビジネスの位置づけを整理したうえで、ソーシャルビジネスの現状を理解する。そのうえで、ソーシャルビジネスの現場のマネジメントに関する課題について学ぶ。具体的には、行政との連携、組織形態の選択、人材マネジメント、マーケティングなどの各テーマについて、事例やケースの分析を行う。さらに、実際にソーシャルビジネスを立ち上げ、運営していくことを想定した議論を行い、知識と実践的なマネジメント力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷本寛治編著『ソーシャル・エンタープライズ』中央経済社、2006年。
その他の文献については、講義のなかで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【ソーシャルビジネスとは何か】
- ② 日本におけるソーシャルビジネスの現状
【ソーシャルビジネスの現状、課題、育成策】
- ③ ソーシャルビジネスの事例1
【ソーシャルビジネスの強みと弱みの抽出】
- ④ ソーシャルビジネスの活動領域と課題
【参加可能性と継続可能性】
- ⑤ ソーシャルビジネスの事例2
【NPO法人里山を考える会の事例から考える】
- ⑥ ソーシャルビジネスと行政
【パートナーとしての行政、顧客としての行政、スポンサーとしての行政】
- ⑦ ソーシャルビジネスの組織
【ソーシャルビジネスの担い手と組織形態】
- ⑧ ソーシャルビジネスの人材マネジメント
【リーダーの役割とスタッフのモチベーション】
- ⑨ ソーシャルビジネスとソーシャルマーケティング
【マーケティングツールの社会活動への適用】
- ⑩ ソーシャルビジネスとソーシャルネットワーク
【ソーシャルビジネスのためのICTツール活用戦略】
- ⑪ ソーシャルビジネスの事例3
【社会条件の変化と組織の対応を考える】
- ⑫ ソーシャルビジネスをスタートさせるために
【“学び”による地域活性化プロジェクトのケース分析】
- ⑬ ソーシャルビジネス起業シミュレーション1
【立案と企画】
- ⑭ ソーシャルビジネス起業シミュレーション2
【運営スキームと課題解決】
- ⑮ ソーシャルビジネス起業シミュレーション3
【プレゼンテーションとディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度(発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など): 50%、課題の内容(レポートなど): 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

医療経済【夜】

担当者名 /Instructor 舟谷 文男 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

授業の概要 /Course Description
 医療は人間社会にとって必須の公共的サービスであり、社会保障制度の一つとして重要な役割を担っている。また、医学・医療技術は日進月歩の発展をみているが、その恩恵を、いつでも、誰でも、どこでも受けられる医療システムの仕組みはどのように構築すべきか、その社会コストを誰が支払うのか、人の命の価格は決められるのか、医療サービスを提供する専門職種や医療施設はどのような構造を持っているのか、経済市民の視点から、わが国の医療経済学の基本を幅広く理解させる。

教科書 /Textbooks
 プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 厚生労働省編『厚生白書』
 真野俊樹著『入門医療経済学』中公新書
 的場恒孝編『医療科学入門』南江堂

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- ① 医療経済学序説
 - ② 社会保障制度の中の医療
 - ③ 医療需要構造
 - ④ 医療サービスの選択 (需要・供給関係)
 - ⑤ 医療サービスの値段 (診療報酬制度)
 - ⑥ 医療提供構造と医療資源
 - ⑦ 地域医療システム-I 地域・職域の保健・医療・福祉 (プライマリケア)
 - ⑧ 地域医療システム-II 地域の医療計画
 - ⑨ 医療制度改革に翻弄される勤務医
 - ⑩ 医療保障と地域医療
 - ⑪ 医療のリスクマネジメント
 - ⑫ 医療情報システムの構築と運用 (1)
 - ⑬ 医療情報システムの構築と運用 (2)
 - ⑭ 医療評価
 - ⑮ 医療崩壊からの地域医療再生 ?

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習レポートの評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 好則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

授業の概要 /Course Description

わが国は、現在少子高齢化社会を迎え、社会保障の面において、大変困難な時代に遭遇しています。これから我々は、どのような時代を迎え、どのように生きていけばいいのかを、みんなで考えていきたいと思っています。少子化、高齢化、年金、いじめ、虐待、貧困など問題が山積しています。現実社会で、発生している様々な事象を検証し、これからの進むべき方向について検討します。

教科書 /Textbooks

OHP、VTR、パワーポイント等を使用し、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ
 杉原好則監修『福祉サービスの質の向上を目指して』メディカルレビュー社
 河野正輝・中島誠・西田和広編『社会保障論』法律文化社
 久塚純一・山田省三編『社会保障法解体新書』法律文化社など。
 授業の進展に応じて適宜、新たに紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回の講義は、1・2時限の連続講義(計180分)とする予定。7回分の内容は以下の通り。

- ①② 社会保障制度の歴史
日本の社会保障制度がどのように作られてきたかを学ぶ
- ③④ 公的扶助制度
生活保護制度の問題点について学ぶ
- ⑤⑥ 高齢化社会と介護保険
高齢化社会を迎え、高齢者の実態と介護保険制度について学ぶ
- ⑦⑧ 高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」の見学実習
高齢者施設の現場を見てこれからの高齢者施設の在り方について考える
- ⑨⑩ 障害者福祉と障害者自立支援法
身体障害者、知的障害者、精神障害者の福祉について考える。
- ⑪⑫ 児童福祉「いじめ」、「虐待」
今学校では何が起きているのか？いじめと児童虐待の実態について考える
- ⑬⑭ 福祉サービス第三者評価
福祉サービスにおける第三者評価について考える
- ⑮ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出題に対するレポート60%、ディスカッション30%、残り10%は授業への参加姿勢、授業中の意見発表などを総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自治体経営【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

授業の概要 /Course Description

「民間にできることは民間に」、「地方にできることは地方に」という基本的な考え方の下に推進された地方交付税改革等の「三位一体の改革」などにより、地方財政は大きな転機に直面した。さらに政権交代により「地域主権戦略大綱」の閣議決定、阿久根市や名古屋市など首長と議会の二元制のあり方を含む「地方自治法の抜本的な見直し」が現在進められている。
自治体経営においては、民間企業と同様にヒト、カネ、モノなどの資源を活用して、地域を効率的・効果的、かつ持続可能に経営していくことは変わらない。そのため自治体の人事・組織、税財政、資産などの仕組みなどの特性を理解したうえで、福祉・医療、都市計画など個別の政策分野を通して自治体の経営戦略について検討する。

教科書 /Textbooks

授業の都度、資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『新・地方分権の経済学』(2006年) 林宜嗣 日本評論社
『行政学(新版)』(2001年) 『行政の活動』(2000年) 西尾勝 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 地方自治体を取り巻く社会・経済環境の変化
【少子・高齢化等、地域経済の停滞】
- ② 地方自治体の仕組み・組織・人事制度
【組織・権限、公務員倫理】
- ③ 地方分権改革などの動き
【地方分権、自治法の改正などの動き】
- ④ 課題発表、議論
【学生による意見交換、論議】
- ⑤ 議会
【議会の役割、課題】
- ⑥ 地方自治体の財政制度I
【国と地方財政制度の特色】
- ⑦ 地方自治体の財政II
【財政構造、一般会計・特別会計・企業会計など】
- ⑧ 地方自治体の財政III
【財政分析4表を読む】
- ⑨ 地方自治体の計画・行政評価
【基本構想など計画、行政評価】
- ⑩ 地方自治体の政策I
【保健・福祉・医療政策】
- ⑪ 地方自治体の政策II
【産業・地域経済振興、地域づくり・コミュニティ政策】
- ⑫ 地方自治体の政策III
【教育、都市計画】
- ⑬ 課題発表、議論
【学生による意見交換、論議】
- ⑭ 監査、住民訴訟など
【内部統制、コンプライアンス】
- ⑮ まとめ
【これからの自治体経営の課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)、授業の状況(質疑、意見、発表等30%)をもとに評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

自治体経営 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名
/Instructor

専任教員

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 1学期
/Semester授業形態 演習
/Class Formatクラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションでは、徹底した討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、小課題が与えられ、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル(研究計画書)としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生から見ると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース(専門分野など)も知ることができる。10週目から最終講義までの6回の講義は、最初に担当した教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑨名の専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じた小課題】

【討議を繰り返す】

⑩～⑮最初のグループ担当教員による指導

【研究プロポーザル(研究計画書)作成、発表】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名
/Instructor

専任教員

履修年次 1年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 演習
/Class Format

演習

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ここでは類似グループ3つからなるユニット編成を想定しているが、実際には2つの場合、4つの場合もあり得る。状況に応じて内容がいくらか変わることはある。

① イントロダクション

【研究プロポーザル(研究計画書)】

②~④ 課題討議1

【思考方法の実践】、【発想方法の実践】

⑤ ユニット内他教員の指導と他グループ共同討議1

【学際的知見】

【共同討議】

⑥~⑧ 課題討議2

【分析手法の実践】

⑨ ユニット内他教員の指導と他グループ共同討議2

【学際的知見】

【共同討議】

⑩~⑫ 課題討議3

【ライブラリーリサーチ(文献調査)結果】

【フィールドサーベイ結果】

⑬~⑭ グループレポートの集約

【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】

⑮ グループレポートの発表

【研究科内発表会】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント総論【夜】

担当者名 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マネジメントは、営利組織であれ非営利組織であれ、その基本原理は共通しており、違いは10パーセントほどに過ぎないといわれている(ドラッカー)。この講義の目的は、マネジメントに関する基本的考え方、哲学をディベートを中心に体得するとともに、マネジメントに携わるプロフェッショナルとしての職業倫理を習得することにある。

なぜ、現代はマネジメントの時代と呼ばれるのか、マネジメントの果たす社会的役割・機能の理解を通して、その現代的意義を明らかにする。このマネジメントに関するマクロ的理解を踏まえて、組織が目的を有効に達成するマネジメントの最適原理とは何か、を理論と実証分析を通して理解を深める。後半は、経済社会のグローバル化、IT化の進展に伴うマネジメント哲学の変化について明らかにする。

教科書 /Textbooks

その都度、指定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジョアン・マグレッタ『なぜマネジメントなのか』(ソフトバンク・パブリッシング社、2003年)
P・ドラッカー『ネクスト・ソサエティ』(ダイヤモンド社、2002年)
T・R・バイパー他『ハーバードで教える企業倫理』(生産性出版、1995年)
梅津光弘『ビジネスの倫理学』(丸善株、2208年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① マネジメントとは何か(1)：営利組織と非営利組織のマネジメント
【“effectiveness”と“efficiency”】
- ② マネジメントとは何か(2)
【経験と科学】
- ③ 企業(組織)はだれのものか(1)
【組織の制度化、ドラッカー】
- ④ 企業(組織)はだれのものか(2)
【コーポレート・ガバナンス】
- ⑤ コーポレート・シチズンシップとCSR
【CSR、企業の社会貢献】
- ⑥ 企業倫理
【社会的機関としての企業、ビジネス倫理】
- ⑦ イノベーションと価値創造
【創造的破壊】
- ⑧ 日本型経営とは何か
【日本とアメリカ：収斂と分散】
- ⑨ 日本型経営とは何か
【成果主義】
- ⑩ リーダーに学ぶ(1)：ジャック・ウェルチのケース
【価値共有】
- ⑪ リーダーに学ぶ(2)：カルロス・ゴーンのケース
【コーチング】
- ⑫ IT革命とマネジメント(1)
【知識社会】
- ⑬ IT革命とマネジメント(2)
【距離の死、時間の死】
- ⑭ 経営者の資質とは
【インテグリティ】
- ⑮ 討議とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各テーマについてのディスカッションへの参加度・貢献度を6割、レポートの内容を4割として評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

マネジメント総論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 マネジメント研究科 専門職学位課程

授業の概要 /Course Description

経営戦略の理論と技法、その応用分析を中心的な内容とした講義を行う。理論とデータ加工によって、分析的に思考するスキルを高めながら戦略的思考力を高めることが本講義の目的である。本講義の到達目標は、経営戦略に関する基本的な理論や考え方を習得し、それらを用いて自分なりの視点から経営戦略を策定することができるようになることである。なお、講義の前半に事業戦略を、後半に全社戦略を扱う。授業は、講義を基本とするが、事前に戦略分析に関する小レポートなどを提出してもらい、受講生と討議する時間を設ける予定である。

教科書 /Textbooks

特に、指定せず、適宜資料を配布する。(なお、ケースを用いる場合、そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

奥村昭博『経営戦略』日経文庫
石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション
 - ②戦略とは何か?
 - ③戦略論の議論と歴史
 - ④事業戦略(業界の構造分析)
 - ⑤事業戦略(業界の構造分析)
 - ⑥事業戦略(企業の内部分析)
 - ⑦事業戦略(企業の内部分析)
 - ⑧ケース
 - ⑨全社戦略(垂直統合)
 - ⑩全社戦略(多角化の論理と種類)
 - ⑪全社戦略(PPMとその応用)
 - ⑫ケース
 - ⑬ビジネスシステム論
 - ⑭経営者の役割
 - ⑮まとめ
- なお、授業の内容は、進捗状況や受講生の興味等に応じて、変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度30%、小レポート30%、期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング【夜】

担当者名 /Instructor 米谷 雅之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

如何に優れた商品やサービスを産み出したとしても、それが市場で販売され、収益の向上につながらなければ、企業にとっては意味がないし、そのような状態が続けば命取りにもなりかねない。販売の過程が商品の「命懸けでの飛躍の過程」と呼ばれるのはそのためであり、それまでの企業の様々な活動は販売の過程で最後の審判を受けることになる。売れるしぐみを如何に創り出していか、まさにマーケティングに軸足を置いた経営が求められることになる。この講義は、ベーシック科目として、マーケティングの基本的な問題を理解することを目的に、受講者による報告や討論をも混じえながら進められる。

教科書 /Textbooks

講義資料を配布して進める予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井淳蔵 (2010年) 『マーケティングを学ぶ』(ちくま新書) 筑摩書房
 石井・栗木・嶋口・余田 (2004年) 『ゼミナール マーケティング入門』日本経済新聞社
 米谷雅之 (2001年) 『現代製品戦略論』千倉書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① オリエンテーション：講義の概要・講義の進め方など
【企業活動とマーケティング】
- ② マーケティング問題の基本認識
【現代市場、販売の困難、マーケティングの目的】
- ③ マーケティング志向の経営
【Product-Out vs. Market-In、技術志向とマーケティング志向】
- ④ マーケティングの理論的展開
【企業と市場、マーケティング相互行為、マーケティング・マネジメント】
- ⑤ マーケティング戦略の展開 (1)
【企業の競争対応・流通対応・市場対応、マーケティング・ミックス】
- ⑥ マーケティング戦略の展開 (2)
【戦略的マーケティング、製品ポートフォリオ、競争地位別戦略】
- ⑦ 製品戦略と新製品の開発
【製品マネジメント、新製品開発、製品差別化と市場細分化、知覚マップ】
- ⑧ 製品ライフサイクルの戦略的意義
【製品ライフサイクル、イノベーションの伝播、製品階層】
- ⑨ 価格戦略と販促 (広告) 戦略
【需要の価格弾力性、プロモーション・ミックス】
- ⑩ チャネル・マネジメント (1)
【流通の種類、商業組織とマーケティング、VMS、流通系列化】
- ⑪ チャネル・マネジメント (2)
【チャネル管理、チャネル政策の種類、パワー基盤、サプライチェーン】
- ⑫ 顧客関係の構築
【顧客関係、顧客満足、関係性マーケティング】
- ⑬ ブランドの構築と維持
【ブランドの機能、ブランド構築、ブランド・エクイティ、ブランド・マネジャー】
- ⑭ マーケティングの進化と拡張
【マーケティングの拡張、サービス・マーケティング】
- ⑮ 討議とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業へのコミット度 (授業への参加姿勢や参加度) や課題レポート等を5割、期末試験 (ないし期末レポート) を5割を目安に、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

マーケティング【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカウンティング【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アカウンティングはビジネスの世界の共通言語である。本講座にあつてはビジネススクールの履修者に期待される水準の財務会計の基礎知識を学ぶ機会が提供される。まずは大学における財務諸表論と重なりあう論点を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のディスクロージャー戦略にまで考察を加えてゆく。講義コンテンツにあつては、英文簿記会計領域のリテラシーが得られるよう、デザインされている。

教科書 /Textbooks

『Accounting～IFRS 水準の企業開示を理解するための諸論点～』
(初回の教室にて無償配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロバート・アンソニー / レスリー・パールマン著 西山茂監訳 (2007年) 『アンソニー会计学入門』 東洋経済新報社 (但し購入は任意)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く (但し、プレゼンテーションの時間をとる等の事情により、講義順は大きく変わることがある)。

①オリエンテーション：本講座の領域と目的、課題について。

【オリエンテーション】

②企業とアカウンティング：会計の役割と職能について。

【会計の役割と職能】

③GAAP とは何か：US-SFAS とIFRS について。

【GAAP】

④バランスシートの機能について。

【B/S】

⑤P/L の機能について。

【P/L】

⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。

【キャッシュフロー】

⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。

【アカウンティング・サイクル】

⑧決算修正：アクルール処理とその会計倫理上の限界について。

【アクルール】

⑨ディスクロージャー：脚注情報とMD&A について。

【ディスクロージャー】

⑩情報信頼性の担保方法：監査報告書について。

【監査】

⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。

【財務諸表分析】

⑫年次報告とIR について。

【アニュアルレポート】

⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。

【意思決定】

⑭MBA アカウンティングのWrap-Up.

【MBA】

⑮アドバンスド財務会計への展望

【財務会計】

...以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの質、プレゼンテーションに際しての積極性、ディスカッションに際しての貢献度、期末試験の成績、等を適宜ウェイト付けし、総合的に判断します (評価ウェイト等の詳細は、初回オリエンテーション時にお知らせします)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

アカウンティング【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファイナンス【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第1回～第5回では、コーポレート・ファイナンスの基礎知識と財務諸表、財務指標、投資尺度の見方を説明する。第6回から本格的なファイナンスの内容となるが、第13回までは企業の最適な財務的意思決定を考える上で重要な前提となる株式価値評価、資本コストの考え方を説明し、実際に企業の資本コストや理論株価を推計する練習を行う。第14回、第15回で、それまでに学んだ考え方の応用として、企業の投資決定のあり方を解説する。頻繁に演習（練習問題及びケース・スタディ）を行い、「基礎的な考え方の理解→実践」のプロセスを繰り返すことになる。なお、企業の最適な基本構成については、第9回で触れることとする。

教科書 /Textbooks

内田交謹『コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 企業の財務行動
 - 【投資決定】【資本構成】【配当政策】【株価】
- ② 財務活動と財務諸表、投資尺度
 - 【ROA】【ROE】【PER】【PBR】
- ③ 資金調達の基本知識
 - 【新株発行】【内部留保】【転換社債・ワラント債】
- ④ 株主還元の基本知識
 - 【配当性向】【配当利回り】【自社株買い戻し】【株式分割】
- ⑤ 演習1
 - 【財務分析】
- ⑥ 現在価値計算
 - 【年金】【フィナンシャル・ライフプランニング】
- ⑦ 株価・債券価格決定の基本理論
 - 【DDM】
- ⑧ 演習2
 - 【株価計算】
- ⑨ DCF法による株式価値評価
 - 【DCF法】【WACC】【企業価値】【負債の節税効果】
- ⑩ 演習3
 - 【DCF法の実践】
- ⑪ 資本コストの概念と企業評価
 - 【資本コスト】【EVA】
- ⑫ ポートフォリオ理論と資本コスト
 - 【ポートフォリオ】【CAPM】
- ⑬ 演習4
 - 【資本コスト推計】
- ⑭ 投資決定1
 - 【NPV】【内部収益率法】
- ⑮ 演習5
 - 【投資決定の実践】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のクラスへの貢献度（発言・質問等）30%
課題の提出 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

ファイナンス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人材マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察する。組織において、優秀な人材を確保し、人材の能力を引き出し、それを発揮させるための仕組みが人的資源管理である。人という経営資源は、物や金とは違った性質をもつがゆえに、管理が非常に難しくデリケートな経営資源である。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、学術的な理論をベースにしながらも現実の企業における事例も紹介しながら講述する。適宜、受講者が自発的に考えるための時間も設けたい。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司・平野光俊編(2010)『入門・人的資源管理』中央経済社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜リーディングスを配布するが、それを必ず事前に読んでくることが求められる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
- ②企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
- ③組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
- ④職務と組織の設計【分業】【調整】
- ⑤人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】【役割等級制度】
- ⑥雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】【非正規従業員】【雇用ポートフォリオ】
- ⑦キャリア開発と人材育成【キャリア】【OJT】
- ⑧人事考課制度【人事考課】【目標管理】【コンピテンシー】
- ⑨賃金制度【年功賃金】【成果主義】、福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
- ⑩多様な労働者タイプの管理【女性労働者】【高齢労働者】【R&D 技術者】
- ⑪人事制度についての事例紹介(1)
- ⑫人事制度についての事例紹介(2)
- ⑬人事制度についての事例紹介(3)
- ⑭人事制度についての事例紹介(4)
- ⑮講義全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(複数回課す予定).....50%、期末テスト.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

組織とリーダーシップ【夜】

担当者名 /Instructor 北 真収 / Masanobu Kita / マネジメント研究科 専門職学位課程, 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

授業の概要 /Course Description

経営者・管理者の果たす役割・機能の本質は、単にリーダー、マネジャーの仕事の現象的側面のみを記述するだけでは理解できない。その本質は組織理解（組織論）が基礎となつてはじめて把握することが可能となる。近代組織論がマネジメント論の原理論としてとらえられるのは、そのためである。

この講義では、まず、近代組織論から現代組織論に至る理論的系譜をたどりながら、経営者・管理者の機能論・職能論、リーダーシップの本質論をとらえることにする。

後半では、この組織の原理論を基礎に、リーダーシップの形態把握を行う。リーダーシップ論では、認知論などの理論と変革型やメンタリングなど新たな視点、対人スキルについて、そのエッセンスを講義する。また、名経営者のリーダーシップから参考点を見出す。

教科書 /Textbooks

講義資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- J.Boyett & T.Boyett, The Guru Guide: The Best Ideas of the Top Management Thinkers,1999 (金井監訳『経営革命 大全』(日経ビジネス人文庫))
 C. Barnard, The Functions of Executives, 1938 (山本安次郎他訳『経営者の役割』ダイヤモンド社)
 H. Simon, Administrative Behavior, 1963(松田武彦他訳『経営行動』ダイヤモンド社)
 R.Lawrence & W. Lorsch, Organization and Environment, 1967 (吉田博訳『組織の条件適応理論』、産能大)
 H. Mintzberg, Henry Mintzberg on Management, 1975 (Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー編集部編訳『H. ミンツバーグ経営論』ダイヤモンド社)
 Nahavandi,A.,The Art & Science of Leadership,2003 (藤原監訳『実践リーダーシップ学』万来舎)
 Cialdini,R.B.,Influence: Science & Practice,2001 (社会行動研究会訳『影響力の武器 なぜ人は動かされるのか』誠信書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション(齋藤)【経営者職能、近代組織論】
- ②古典的組織論(齋藤)【官僚制組織、科学的管理、人間関係論、管理職能論】
- ③組織の設計とその諸形態(齋藤)【ラインとスタッフ、職能部門制組織、事業部制組織】
- ④近代組織論I(齋藤)【バーナード、組織成立の3要素】
- ⑤近代組織論II(齋藤)【サイモン、意思決定論、S-R図式】
- ⑥現代組織論I(齋藤)【コンテインジェンシー理論、ローレンス=ローシュ】
- ⑦現代組織論II(齋藤)【ネオ・コンテインジェンシー理論、カオス、ゴミ箱理論】
- ⑧現代組織論III(齋藤)【フラット化、コンダクターレス組織、経営革命】
- ⑨リーダーシップの理論I(北)【信頼蓄積理論】、【ハイフェッツの定義】
- ⑩リーダーシップの理論II(北)【状況即応理論】、【認知論】
- ⑪変革型リーダーシップ(北)【コッターのリーダーシップ】、【実践家の持論】
- ⑫メンタリング(北)【プロテジェ】、【メンタリング効果】
- ⑬対人スキルI(北)【説得の逆効果】、【接種理論】
- ⑭対人スキルII(北)【要請技法】、【交渉】、【カウンセリング】
- ⑮討議とまとめ(北・齋藤)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題..40%、討議の貢献度..60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords